

Le costume moderne ; journal illustré de modes. 13 v.

Berlin, C. Heinemann, 1891—1906. (文献番号3-257)

最新流行衣装；モード画新報 13分冊

1890年に初刊された、おそらくモードの専門技術者を対象としていたと思われるプレート集である。文献目録類に記されていないため、何年まで刊行されたかは詳らかでない。毎月通常5枚、時折6枚のプレートに1、2頁の解説文を添えて発行されたもので、本学図書館の所蔵になるものは、その第2年目にあたる1891年3月から1906年12月までの分が13冊分に合本され、総数300枚のプレートが納められている。

本書の特色はそのプレートの細密な描写とそこに用布のスイッチが貼付されていることである。プレートは手彩色石版画で、頁中央に大きく一体が描かれ、周辺の余白に小さくバックスタイルと、デザインのヴァリエーションが添えられている。中央の人物は髪型、顔の表情、パラソルや扇などの持ち物、そしてなかでもこの時期の特徴である衣装の多様で凝った装飾と生地テクスチュアまでが、まざまざと描出されている。それは刊行当時、単にニュー・モードの一般的イメージだけではなく、それを模倣するための具体的技術をも伝える役割を果たしたものと考えられる。

また現在は約10パーセント程は欠落しているものの、当初は全てのプレートに貼られていたらしい5×7cmのスイッチは実際に衣装を仕立てようとする人に、誠実な確かなアドバイスを与えたことであろう。

従って、このプレート集はモードの一般客というよりも、クチュールやミリナー、あるいは生地店などが購入して、顧客に見せて注文を受ける時に役立てたものと推測される。細部の描写に余りにも捕らわれ過ぎ、表現が様式化されているため、芸術的評価は必ずしも高くはないであろうが、今日では一般の服装からは殆ど失われ、忘れ去られつつある、いわゆるベル・エポックの女性のモードにおけるクチュリエやミリナーたちの至芸ぶりをつぶさに見せてくれ、またその衣擦れの余韻まで伝えてくれる点できわめて貴重な資料である。

図は1891年の草花文絹地またはウールモスリンの夏の外出着。
(能澤)

